

伊能忠敬翁特集

学校図書館館長 高橋春樹

本年は、イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが天体観測をしてから四百年の節目の年であることを記念して「世界天文年」と定められています。「図書館だより」もこれにちなんで、日本を代表する地理・天文学者で、郷土を代表する偉人である伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」(伊能図とも呼ばれる)作成の前後をたどり、その偉業を回顧します。

わが国では近世中期、利根川を介して銚子から関宿、江戸川を介して関宿から行徳海岸、そして江戸までのルートが確立して水運が発達します。忠敬を輩出した佐原は、これらを中継する河岸として、年貢米の津出し場(湊から荷船を出す場所)、そして周辺地域の物資の集散地として栄え、醸造業

などの産業も急激に発展しました。伊能家でもこれらの仕事を生業とし、婿入りした忠敬が、傾いた商家を努力と才覚を以って、一代で建て直したのでした。

また、佐原といえば、関東三大山車祭りのひとつ「佐原の大祭」がとても有名です。

江戸時代から続く伝統と格式を誇る、七月に行われる八坂神社の祇園祭、十月に行われる諏訪神社の秋祭りの総称です。旧市街を流れる小野川べりを、豪壮な山車が佐原囃子の調べにのって、祭礼提灯にあかりが灯り柳が水面にゆれる。そんな風情がよく似合う街です。

平成十八年三月には、佐原市、小見川町、山田町、栗源町の一市三町が合併して、香取市となっています。地理・天文学風にいえば、東経百四十度二十九分、北緯三十五度五十三分、面積二百六十二平方km、といつたところでしようか。



2009年11月30日
第83号
成田高等学校
図書委員会
成田市成田27番地

伊能家での活躍

1年A組 椎名桂太

当時、佐原村の名門といわれていたのは、永沢家と伊能家の両家でした。どちらも小野川の東側に広大な屋敷を持ち、永沢家は浜宿組、伊能家は本宿組の名主をつとめていました。

忠敬は、明らかに永沢家が優位にありました時に、伊能家に迎えられました。このころ伊能家では一家の主人が、二代続けて若死保されていましたが、米穀売買や酒造は衰運に向かっているところでした。しかし忠敬は、伊能家の家憲を守り、家業の酒造とその販路拡大につとめました。

二十四歳の時、「牛頭天王祭礼騒動」の当事者となりました。ここでは、村民の統制に苦慮し、浜宿組の永沢家との義絶という苦汁を飲むことになります。しかし、この事件がきっかけとなり村の昔からのしきたりや村政に関する記録を調査するようになりました。また、一十七歳の時には、「佐原村河岸事件」で村の主役となりました。この頃から忠敬は、文書や記録に深い関心を持つようになりました。そしてこの事件で

の幕府勘定奉行とのやりとりの中で、古記録の知識と文書記録が大いに役立ち、村人や忠敬の希望通りに事件を解決へと導く事が出来ました。

伊能忠敬翁の性格

2年D組 笹島俊樹

伊能忠敬の性格について調べてみました。まず、とてもない根性の持ち主ということは想像に難しくありません。何しろ彼は、

伊能家の当主として四十九歳まで必死に働き、五十歳で天文学や測量などの技術を学び、亡くなる数年前の七十一歳まで日本全国、測量の旅を続けました。普通の人であれば、四十九歳で当主の役割を終えた時点で満足し「余生はゆっくり過ごしたいな」と思いそななところを、彼の場合は幼い頃に大好きだった算法（今の数学）を世の中で活かすため、新たに天文学を習得し、更に地図をつくるため日本中を自らの脚で踏破したのです。

もう一点、彼は算法がとても好きだったせいなのか、先見の明や、計算高い面があつたと想像できます。時は一七八三年、世に言う天明の大飢饉が発生し、日本各地で餓死者が多数出て病死者が野に晒され、打

ち壊しや一揆などの暴動が多発しました。しかし、伊能家のある佐原では、ひとりの餓死者も出なかつたと言われています。暴動の発生を予測した忠敬が、米蔵を開放し、伝染病を防ぐため村人に薬を配つたりしたからです。もしかすると、佐原の地で暴動が起きて伊能家の家屋敷を失つてしまつ場合と、忠敬が村人を救済することで暴動を未然に防ぐ事ができた場合と、結果としてどちらが伊能家にとって得になるかを考えたのかもしれません。



伊能忠敬翁肖像画 部分
(伊能忠敬記念館所蔵)

測量開始以前の伊能忠敬

1年D組 山本洋暉

伊能忠敬は、一七四五（延享二）年一月十一日に、神保貞恒の次男として上総国山辺郡小関町（現・千葉県山武郡九十九里町

小関）の名主・小関五郎左衛門家で生まれました。六歳の時に母親が亡くなり、婿養子だった父は、兄と姉を連れて実家の武射郡小堤村（現・横芝光町小堤）の神保家に戻りますが、忠敬は祖父母の元に残り、その後家を叔父が継ぐことになると、十歳の時に父の元へ引き取られました。十八歳になった忠敬は、下總国香取郡佐原村（現・香取市佐原）の伊能家に婿養子に入り、以降商人として生活していました。

伊能家は、酒・醤油の醸造、貸金業を営んでいたほか、利根水運などにも関わっていました。商人としてかなりの才覚の持ち主であったようで、伊能家を再興した後、佐原の役職を務めたなどの記録が残されており、かなりの財産を築き上げたそうです。そして一七九四（寛政六）年十一月、五十歳のときに家督を長男の景敬に譲り隠居しました。

翌年、江戸に出て幕府の天文方・高橋至時に師事し、測量・天文観測などを修めました。その際に天体観測を利用し地球の大きさを仮定しますが、師匠である高橋至時に、基準とする距離が短すぎて不正確である、あるいは江戸と蝦夷地などの距離を元にすれば推測が可能であろうと一笑に付されてしまいます。しかし、この出来事が測量の旅に出るきっかけの一つとなるのです。

恩師高橋至時

1年A組 飯田 韶

高橋至時は、当時の天文学の第一人者ともいふべき人物で、伊能忠敬よりも二十歳も若かったが、忠敬は一生涯、師と仰ぎ尊敬したといいます。

至時は、大坂の同心の家に生まれ、学問好きの彼は少年の頃から天文学や数学に深い関心を持っており、この時点での出し方でも小数点以下三十桁程まで計算できたといいます。

至時が忠敬と出会ったのは忠敬五十一歳の時です。その頃至時は新しい暦を作る仕事を幕府から命じられていました。最初は、年寄りの道楽かと思い、弟子になりたいと言つてきた忠敬を追い返そうとしましたが、その熱意と知識が確かに豊かなところを見込んで、天文学を教え始めます。熱心に勉学に励み、いざ測量となると自分の持ち物を忘れて行つてしまふほどに夢中になる忠敬を至時も「推歩先生」と呼んで尊敬していました。幕府に測量の許可をもらうことが出来たのも、至時が懸命に説得をしたからでした。また、忠敬が測量をしているときには度々手紙を送り、励まし続けました忠敬のサポートだけでなく、至時自身も才

ランダ語で書かれた最新の天文学書「ラランテ暦書」の翻訳に心血を注ぎました。この時、忠敬が出した緯度一度の距離がこの書物に書かれてあるものとピタリと一致したため、一人は涙を流して喜んだそうです。しかし一八〇四年、翻訳の仕事に無理を重ねたことが原因で結核を患い亡くなっています。以後、忠敬は毎朝、どこにいても至時の墓の方向へ手を合わせたそうです。

測量のエピソード

1年D組 安藤優祐

幼い頃から算法が好きだった伊能忠敬は、世の中のために算法を活かすという夢を叶えるため天文暦学を学ぶことになります。学ぶ場所は、江戸にある「司天台」と呼ばれる天文台です。また、この「司天台」は「暦局」という役所にもなっていて、専門の役人が天体観測を行い、天文暦学の研究をしていました。忠敬は当時使われていた中国の暦に納得がいかず、正しい暦を作りたいと思っていました。その為には、まだ知られていない地球の大きさを知ることが役立つという思いから勉強に励みました。



測量方御用旗

うとう測量の時がやってきました。地球の大きさを知るために緯度一度分の距離を測るのが目的です。しかし、それだけでは幕府の許可が降りることはない、師丘・高橋至時の力を借りて、蝦夷地（現・北海道）までの実測を計画しました。

忠敬は、非常に早いペースで測量をこなしていき蝦夷地にたどり着きましたが、強風、荒波、険しい山などに苦しみ、江戸に帰るまで百八十日という長い旅になってしまいました。伊能測量隊の地図は幕府に認められ、幕命を帯びての測量になりました。

こうして十回もの測量を重ね、ついに「大日本沿海輿地全図」という日本地図が完成しました。実は、完成の三年前に忠敬は亡くなってしまい、弟子達の手により忠敬が人生を捧げた地図が完成しました。さらに、忠敬が何回も、そして丁寧に測った緯度一度分の距離は、現在の計算による距離とほぼ一致していました。

世界天文年記念「伊能図」展を開催中

「図書館だより」の伊能忠敬翁特集と連携して、図書館閲覧室では十二月十七日まで「伊能図」展を開催しています。展示の地図は、本校関連施設の成田山仏教図書館が所蔵する「大日本沿海輿地全図・中図（全八枚）」を展示用に複製したもので、手で触れる事ができます。郷土の偉人・伊能忠敬の日本実測に懸けた情熱が伝われば幸いです。是非ご観覧ください。



関東図 部分（成田山仏教図書館蔵）

お知らせ

■新役員の紹介

■新役員の紹介

三月三日（水曜日）の改選に際しては、候補者（候補者）が決まりました。

委員長 副委員長	広報班 班長	班長 同副班長	班長 受入班	班長 同副班長	班長 同副班長	班長 コンピュータ班	班長 管理班	班長 同副班長	班長 同副班長	班長 同副班長	班長 読書・アピール班	班長 同副班長
★ 委員長 副委員長	★ 広報班 班長	★ 同副班長 班長	★ 受入班 班長	★ 同副班長 班長	★ 同副班長 班長	★ コンピュータ班 班長	★ 管理班 班長	★ 同副班長 班長	★ 同副班長 班長	★ 同副班長 班長	★ 読書・アピール班 班長	★ 同副班長 班長
渡辺 齋藤 雄太	1年F組 飯田	2年A組 笹島	2年H組 早川	2年G組 森井	2年B組 高田	2年A組 高田	2年B組 齋藤 雄太	2年C組 鈴木 智之	2年C組 山崎 可央李	2年F組 藤崎 健介	1年F組 小林 有薦	1年F組 熊田原果奈
勇 熊田原果奈	1年F組 飯田	2年A組 笹島	2年H組 早川	2年G組 森井	2年B組 高田	2年A組 高田	2年B組 齋藤 雄太	2年C組 鈴木 智之	2年C組 山崎 可央李	2年F組 藤崎 健介	1年F組 小林 有薦	1年F組 熊田原果奈
勇 熊田原果奈	1年F組 飯田	2年A組 笹島	2年H組 早川	2年G組 森井	2年B組 高田	2年A組 高田	2年B組 齋藤 雄太	2年C組 鈴木 智之	2年C組 山崎 可央李	2年F組 藤崎 健介	1年F組 小林 有薦	1年F組 熊田原果奈

前期役員の皆様大変ご苦労さまでした。

■冬休み前特別貸出

冬休み中の図書館は閉館です。

十一月一日（火）～十一月十一日（土）まで、貸出冊数無制限の特別貸出を行います。返却日は一月八日（金）です。この機会にじっくり読書を楽しみませんか。

編集後記

今回は「伊能圖」展」と連携しての発行となりました。記事を書く図書委員会・広報班員は、時間の余裕もなく、また資料もあまり多く用意できなかでよく頑張つたと思っています。

調べを進めていくなかで、伊能忠敬の作成したものと現代の地図を見比べると誤差が非常に少なく驚きました。当時はまだ測量技術や、それに伴う道具が無いなかでようこのような正確なものを作ることが出来たと驚きます。また、部分的には明らかに現代の形と異なっている箇所がありました。それは、当時から現在に至るまで、護岸工事や干拓が行われた結果のようです。このような取材・調査をすることも大変楽しいことだと実感しています。

廣報班班長 笹島俊樹